



芦田敏文 (ASHIDA, Toshifumi)

主任研究員

博士 (農学)

- 1972 兵庫県生まれ
- 1997 北海道大学農学部農業経済学科 卒業
- 2002 北海道大学大学院農学研究科 博士課程修了
農業工学研究所採用 研究企画科配属
- 2003 農村計画部 地域計画研究室配属
- 2006 農研機構 農村工学研究所
農村計画部 地域計画研究室
- 2011 企画管理部業務推進室
(兼 農村基盤研究領域 地域計画担当)



Langkawi 稲作博物館にて息子と

研究者の横顔

<ルーツ>

生まれてから高校卒業まで阪神間で過ごし、変化を求めて試される大地・北海道へ。新天地の自由を満喫していたところ、卒業が困難な状況に陥っていました…。

活路を開くべく、農学部農業経済学科へ転学部。そこで体験した農家調査に興味を引かれ、気づけば大学院の博士課程まで居座ることに。博士論文は、実態調査をベースに、北海道の農地市場の地域性を踏まえた大規模稲作経営の展開方向について取りまとめました。



マイ耕うん機です

<農業経営研究の視点を活かした農村計画研究を目指して>

現在は、耕作放棄地の発生抑制、再生手法に関する研究を担当しています。耕作放棄地を解消する必要性は、低下した自給率の向上にあり、生産手段としての再活用が一番の解決策。そこで、自給率の低い畑作物の生産による耕作放棄地の再生方法について、市民農園を借りて実際に畑作物を栽培してみたりしながら…試行錯誤しています。大学院時代に培った農業経営研究の視点を活かした、オリジナルの農村計画研究が目標です。



義母と息子。家族労働力の活用

<業務推進室 (企画管理部門) 主研として>

2011年度は、採用時以来になる業務推進室の仕事を併任しました。あくまで室長、チーム長を支える役割に過ぎませんでしたが、所の行事・会議運営や資料・提出書類の作成に関わることで、視野が広がりました。具体的には、他領域の研究内容について勉強・理解できたこと、震災対応等における研究職員の底力を目の当たりして大きな刺激を受けたこと、事務方職員の業務の論理やその重要性が理解できたこと等です。

これらの経験をこれからの業務に活かして行きたいです。



中山間地域でも見事に穂った麦